

## 実体経済の動向

### ◇出荷は小幅ながら増加

(生産—微増)

8月の鉄工業生産(速報、季節調整済み<sup>(注)</sup>、前月比)は、+0.9%(船舶を除くと+1.1%)と前月減少(-2.2%)のあとわずかながら増加した(前年同月比+2.5%)。

(注) 以下増減率は特に断わらない限り前月比または前期比(物価を除き季節調整済み)。

8月の生産を財別にみると、建設資材、耐久消費財は4か月ぶりに増加し、他の財も前月減少のあといずれも小幅増加となった。すなわち、一般資本財は、ポンプ、運搬機械(コンベア、エレベータ)が引続き増加したうえ、圧延機械、非標準変圧機等の大型機械が著増したため、非耐久消費財は石けん、筆記用具(鉛筆、万年筆)の大幅増加を主因にそれぞれ増加した。また生産財は、フェノール樹脂、綿糸、毛糸が引続き減少したものの電気銅、アルミ地金、鋼板、板紙等の増加から、小幅増加となった。一方、建設資材は、セメント

が減少したが、橋りょうの著増や形鋼、棒鋼等の増加から、また耐久消費財も電気洗たく機、電気冷蔵庫、小型乗用車、オートバイ等の増加に加え電卓の増産持続から、それぞれ4か月ぶりに増加した。

(出荷—小幅増加)

8月の出荷(速報)は、+0.9%(船舶を除くと+1.2%)と前月減少(-0.8%)のあと小幅ながら増加となった(前年同月比+1.4%)。

8月の出荷を財別にみると、耐久消費財が前月好伸のあと反動減となったが、それ以外の各財の荷動きは、いずれも前月比好転を示した。まず、耐久消費財は、電卓が引続き大幅増加となり、カラーテレビ、ステレオ、電気冷蔵庫等も増加したが、前月著増したエアコンの反動落ちが響き大幅減となった。一方、一般資本財は、運搬機械、金属加工機械の著増等から、かなりの増加となったほか、建設資材も、セメント、形鋼の減少の反面、棒鋼、橋りょうの大幅増加を主因にまずまずの伸びを示した。このほか非耐久消費財は、家庭用合成洗剤、筆記用具(鉛筆、万年筆)の著増から、また生産財は、鋼半製品、鋼帯、合成樹脂、段ボール原紙等の減少の反面、基礎薬品、石油製

### 鉄工業生産の動向

(季節調整済み、特殊分類別は前期(月)比増減(-)率・%)

	51年		52年		52年		
	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	6月	7月	8月
鉄指数	126.5	128.7	129.4	130.6	130.9	128.0	129.2
工 前期(月)比	1.7	1.7	0.5	0.9	1.6	2.2	0.9
業 前年同期(月)比	13.7	13.8	8.5	5.0	4.6	0.9	2.5
投資財	2.0	4.0	0.5	1.5	2.6	1.9	0.6
資本財	1.8	4.6	0.3	2.4	3.4	1.3	0.7
同(輸送機械を除く)	2.9	6.5	0.5	0.9	1.7	0.5	1.5
輸送機械	0.9	1.0	2.7	5.4	5.0	1.2	0.4
建設資材	2.5	2.5	1.5	0.9	1.8	1.7	0.5
消費財	-0.4	-0.9	2.2	2.7	1.8	3.5	1.4
耐久消費財	-3.3	-1.2	4.3	2.0	-1.3	2.8	2.4
非耐久消費財	2.1	0.4	0.8	3.2	4.5	4.3	0.8
生産財	3.0	1.7	0.2	0.7	0.2	1.4	0.8

(注) 1. 通産省調べ、52年8月は速報。  
2. 前年同期(月)比は原指数による。

### 鉄工業出荷の動向

(季節調整済み、特殊分類別は前期(月)比増減(-)率・%)

	51年		52年		52年		
	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	6月	7月	8月
鉄指数	130.3	130.7	134.4	132.7	132.1	131.1	132.3
工 前期(月)比	1.6	0.3	2.8	1.3	0.7	0.8	0.9
業 前年同期(月)比	13.4	10.5	8.0	3.5	1.9	0.8	1.4
投資財	3.7	1.1	3.3	1.4	-0.7	0.5	1.9
資本財	4.6	0.6	5.0	0.8	-0.3	1.0	2.6
同(輸送機械を除く)	2.8	6.2	2.5	0.1	0.8	1.0	3.4
輸送機械	6.7	5.8	7.5	0.9	-2.7	4.3	1.3
建設資材	2.5	1.5	0.8	3.2	-2.8	0.0	1.6
消費財	-0.5	-0.4	4.9	0.6	2.6	1.6	1.3
耐久消費財	-2.7	0.3	7.5	4.0	-0.5	3.0	4.6
非耐久消費財	0.5	-0.4	3.2	2.1	5.2	5.3	1.1
生産財	1.4	0.2	1.0	1.5	1.1	1.0	1.3

(注) 1. 通産省調べ、52年8月は速報。  
2. 前年同期(月)比は原指数による。

品、紡績(綿糸、毛糸)、織物等の出荷増から、それぞれ増加となった。

(在庫—ほぼ横ばい)

8月の生産者製品在庫(速報)は、+0.1%と前月(-0.2%)に続き、ほぼ横ばいとなり、在庫率(45年=100)は出荷増を映じて131.7と1.0ポイントの低下となった。

財別にみると、非耐久消費財と建設資材が久方ぶりに減少したものの、耐久消費財、生産財は前月減少のあと再び増加し、一般資本財は4ヵ月連続の増加となった。すなわち、非耐久消費財は、灯油、写真フィルムに加え、タオル生地、万年筆の減少から、また建設資材もセメント、棒鋼、石こうボード等の大幅減少を主因に、それぞれ5ヵ月ないし4ヵ月ぶりの減少となった。一方、耐久消費財は、前月著減したエアコン(ウインド型)が大幅増加したのをはじめ、カラーテレビ、オートバイも増加したため再び増加となったほか、生産財も、在庫調整中の鉄鋼(粗鋼、鋼板等)紡績(綿糸、毛糸)、塩ビ樹脂が引続き減少、電気銅、織物等も減少した反面、アルミ地金、段ボール原紙、トランジスタが増加を続けたうえ、鉛電池、

強化ガラス等も在庫積上りをみたため小幅増加となった。また、一般資本財はトラクタ(装軌式)、標準モーターの減少傾向にもかかわらず、ショベル系掘削機、農機、電卓(プログラム式)が引続き増加したため、4ヵ月連続して増加となった。

(設備投資—一般資本財は大幅増加)

8月の一般資本財出荷(速報)は、前月減少(-1.0%)のあと+3.4%と大幅増加となった。

品目別には、トラクタ、電話機が引続き減少し、機械プレス、押出成形機も大幅減少となったが、運搬機械(クレーン、コンベア)、金属加工機械(工作機械、圧延機械)が著増し、銅電線ケーブル、ポンプ等も増加となった。

8月の機械受注額(船舶を除く民需、前月比)は、電力からの受注著増を主因に+13.1%(前年同月比+19.0%)と久方ぶりにかなりの伸びとなった。

業種別にみると、製造業からの受注は、鉄鋼、自動車、機械等が減少した反面、繊維、化学、紙パ、窯業等が増加したため+3.3%(前年同月比-5.9%)と前月減少(-6.5%)のあと小幅増加を示した。一方、非製造業(船舶を除く)からの受注も農林漁業、その他非製造業が減少した反面、電力が引続き著伸し、建設業も増加を続けたため、+22.4%(前年同月比+49.3%)と大幅増加となった。

この間、同官公需は、防衛庁、その他官公庁向

需要先別機械受注の推移

(季節調整済み、月平均、単位・億円)

	51年		52年		52年		
	10~12月	1~3月	4~6月	6月	7月	8月	
民需	2,707 (9.7)	2,829 (4.5)	2,688 (-5.0)	2,559 (7.7)	2,394 (-6.4)	2,661 (11.1)	
同(船舶を除く)	2,673 (7.3)	2,710 (1.4)	2,507 (-7.5)	2,279 (4.2)	2,304 (1.1)	2,606 (13.1)	
製造業	1,087 (7.6)	1,161 (6.8)	1,028 (-11.5)	999 (7.9)	934 (-6.5)	965 (3.3)	
非製造業	1,646 (12.6)	1,662 (0.9)	1,648 (-0.8)	1,594 (10.9)	1,474 (-7.6)	1,737 (17.9)	
同(船舶を除く)	1,643 (9.8)	1,542 (-6.2)	1,492 (-3.2)	1,297 (2.3)	1,433 (10.5)	1,753 (22.4)	

(注) 経済企画庁調べ。カッコ内は前期(月)比増減(-)率(%)。

鉱工業製品在庫の動向

(季節調整済み、特殊分類別は前期(月)末比増減(-)率・%)

	51年(期末)		52年(期末)		52年		
	9月	12月	3月	6月	6月	7月	8月
指数	160.3	167.8	167.7	174.3	174.3	174.0	174.2
前期(月)末比	1.5	4.7	-0.1	3.9	2.0	-0.2	0.1
前年同期(月)末比	-1.2	5.3	5.6	10.3	10.3	9.7	10.0
製品在庫率	123.0	127.2	123.1	131.9	131.9	132.7	131.7
投資財	5.6	6.0	-1.6	3.1	3.7	1.2	-0.8
資本財	7.4	6.3	-1.4	2.5	3.8	1.3	-0.9
同(輸送機械を除く)	7.3	5.4	-2.8	1.2	3.5	3.1	1.0
輸送機械	8.6	9.3	-1.1	4.5	3.4	-1.8	-3.9
建設資財	2.1	5.4	-1.4	4.5	4.3	0.3	-0.3
消費財	3.5	4.4	-3.3	3.9	1.9	-1.0	0.6
耐久消費財	5.8	4.1	-2.3	4.6	2.7	-2.3	1.1
非耐久消費財	0.9	4.1	-4.4	3.3	1.1	0.4	-0.4
生産財	-1.4	3.8	3.0	4.0	1.0	-0.3	0.5

(注) 1. 通産省調べ、52年8月は速報。

2. 前年同期(月)末比は原指数による。

けを中心に、運輸、通信向け等もそろって著増したため、前月大幅減少(-43.9%)のあと+67.6%(前年同月比+2.1倍)の大幅増加となった。

8月の建設工事受注額(民需、速報)は、-4.5%と前月増加(+14.8%)のあと再び減少した。

一方、官公庁分は+22.2%と前2か月小幅減少を続けたあと大幅な増加となった。

#### ◇8月の小売商況は再び伸び悩み

8月の全国百貨店売上高(速報)は、前月持直しをみた(7月+5.5%)あと、-2.4%と再び減少となった。

これを品目別(前年同月比)にみると、主力の衣料品が、前月早めのバーゲンを行った反動に加え、天候不順も響き大幅な伸び鈍化を示したほか、食料品、身のまわり品などその他の品目でも家庭用品が家具好調からますますの結果であった

ことを除き、一様に伸び悩みとなった。

9月の乗用車新車登録台数(軽を除く)は、-1.0%と4か月連続の減少となった。これは、小型車がニューモデル車発売から増加したにもかかわらず、大衆車が依然不振を続けているためである。

#### ◇商況の基調——9月末にかけて小戻し

9月の商品市況をみると、合繊、紙、アルミ、木材、砂糖などが在庫圧迫から弱含みを続けたが、鉄鋼、非鉄(銅、鉛)、セメント、合板は強含みに推移し、天然繊維も月央以降反発するなど、総じてみると月末にかけて小戻し商況を呈した。

これは、大方の業種が減産体制を継続しているほか、一部業種(棒鋼、セメント、合板)では安値販売の自粛を背景として建値引上げに一段と強腰で臨んでいるなど主として供給面の要因によるところが大きい。一方、需要面では長雨により出遅れ

### 卸売物価指数の推移

(単位・%)

	ウ エ イ ト	52年		52年					
		4~6 月平均	7~9 月平均	7月	8月	9月	上旬	中旬	下旬
総平均	100.0	0.1	0.5	-0.5	0.2	0.1	0	-0.1	0.1
食料品	13.4	1.2	-0.5	-0.8	0.3	0.8	0.3	-0.4	0.2
非食料農林産物	2.4	-2.9	-7.0	-2.6	-2.3	-1.1	-0.3	0.1	-0.5
繊維製品	7.8	-0.3	-1.7	-1.2	-0.1	-0.1	-0.4	-0.1	0.3
製材・木製品	3.8	-0.7	-1.9	-0.4	-0.9	-0.3	0.1	0	0.1
パルプ・紙・同製品	2.8	0.9	1.7	0.6	0.3	0.3	0.2	0.1	-0.1
金属素材	1.9	-6.6	-5.4	-3.8	0.5	0.8	0.8	-0.7	0.1
鉄鋼	9.4	-0.8	2.2	-0.1	2.4	0.5	0.2	-0.1	0.3
非鉄金属	4.2	-2.0	-5.2	-1.6	-2.1	-0.2	0.3	0.5	0.4
金属製品	3.8	0.2	-0.1	-0.2	0.1	0.4	0.1	0	0.3
電気機器	9.0	0.5	-0.2	-0.2	-0.1	-0.1	0.1	-0.1	-0.2
輸送用機器	6.8	-0.2	1.3	0.5	0.9	0.4	0.2	0	0.2
一般・精密機器	10.8	0.9	0.4	0	0	0.1	0	0	0
化学製品	8.8	0.1	-0.4	-0.4	0.2	-0.1	-0.1	0	-0.1
石油・石炭・同製品	4.6	0.1	-1.0	-1.1	-0.1	0.1	0	0.1	-0.1
窯業製品	3.1	0.9	0.9	0.2	0.5	0.8	0	0	1.5
雑品目	7.6	1.0	-0.9	-0.3	-0.4	-0.8	-0.6	0	0
工業製品	85.5	-0.2	-0.2	-0.3	0.2	0	0.1	0	0.1
大企業性製品	63.3	-0.2	-0.1	-0.2	0.3	0	0	-0.1	0.1
中小企業性製品	20.1	-0.5	0	-0.1	0	0.2	0.1	0	0.3
非工業製品	14.5	-0.1	-2.0	-1.8	0.1	0.4	0.1	0.3	0.2

(注) 日本銀行調べ

ていた公共工事、住宅建設関連需要が出始めたこと(条鋼類、セメント、合板)や取引所の市況対策(天然繊維、海外市況の反発(非鉄)をながめて、流通・ユーザー筋の在庫手当買いがやや積極化したことなど、部分的には明るい材料もみられたが、大勢としては、依然盛上りに乏しい地合いが続いている。このため、市況の上昇後は実際の荷動きが極端に細ってしまう品目(棒鋼、合板)もみうけられるなど、商品市況は底値圏内の小浮動を続けている。

(卸売物価——小幅ながら前月に続き上昇)

9月の卸売物価は、+0.1%と前月に続きわずかながらも上昇した(前年同月比+0.5%)。

品目別には、配合飼料や大豆かすの値下りを中心に雑品目が続落となったほか、非食料農林産物(丸太、輸入綿花など)などが引続き下落した。一方、配給米の値上りもあって食料品が続騰し、また前月大口需要家向け値上げが決まった鉄鋼のほか、窯業製品、輸送用機器などが上昇を続け

た。

(消費者物価——9月<東京都区部、速報>は季節的要因からかなり大幅上昇)

9月の消費者物価(東京都区部、速報)は、総合で+1.5%と前月(+0.4%)を上回る上昇となった(もっとも前年同月比では+8.2%と前月<+9.5%>に比し上昇率鈍化)。

これは、被服が秋冬物衣料への入替えから、また食料品が消費者米価の改訂等からかなりの値上りを示したためである。

なお、季節商品を除く総合でも、+1.4%の上昇となった(前年同月比+8.1%)。

◇經常収支黒字幅は縮小

8月の国際収支は、貿易収支黒字幅の縮小や長期資本収支の流出超幅拡大により、総合収支では、292百万ドルの黒字と黒字幅は前月(黒字、937百万ドル)の約半程度に縮小した。

經常収支は、貿易収支黒字幅の縮小(1,142百万ドル、前月黒字2,048百万ドル)により、670百万ドルの黒字(前月黒字1,554百万ドル)と黒字幅は前月比半減となった。

長期資本収支は、本邦資本が、内外金利差拡大を映じた対外証券投資の増加や、対外直接投資の増加などから大幅流出超となったうえ、外国資本が外債発行の減少や対日証券投資が流出超に転じたことなどから小幅流入超にとどまったため、404百万ドル(前月流出超幅186百万ドル)と51年10月(流出超幅474百万ドル)以来の大幅流出超となった。

一方、短期資本収支は、原油入着の増加に伴う輸入ユーザンス享受増に加え、船舶引渡しの減少に伴う輸出前受金の引落し減から3か月ぶりに

消費者物価指数の推移

		ウェイト	52年		52年			最近月の前年同月比
			4~6月平均	7~9月平均	7月	8月	9月	
東	総合	100.0	2.4	0.3	△ 0.2	0.3	* 1.5	* 8.2
	季節商品を除く総合	91.9	2.8	0.8	0.3	△ 0.5	1.4	8.1
	(季節商品)	(8.1)	(△ 1.1)	(△ 5.2)	(△ 5.3)	(9.0)	(* 3.5)	(* 9.4)
京	食料	40.1	0.8	0.3	△ 0.7	2.4	* 1.6	* 7.1
	住居	11.1	1.6	1.1	0.4	0.2	△ 0.1	5.0
	光熱	4.2	0	0	0	0	0	8.3
	被服	12.4	0.9	△ 1.1	0	△ 5.1	8.1	3.5
	雑費	32.2	5.6	0.9	0.2	0.1	△ 0.1	12.3
全	総合	100.0	2.7	...	△ 0.3	0	...	8.5
	季節商品を除く総合	91.7	2.7	...	0.3	△ 0.4	...	8.0
	(季節商品)	(8.3)	(2.7)	(...)	(△ 6.4)	(5.9)	(...)	(14.7)
国	特殊分類							
	農水蓄産物	16.3	0.3	...	△ 3.0	3.4	...	10.2
	工業製品	46.6	2.0	...	0.2	△ 1.2	...	4.8
	うち大企業性製品	21.4	1.0	...	0.1	0.1	...	2.2
	中小企業性製品	25.2	3.0	...	0.3	△ 2.4	...	7.1
サービス	33.6	5.0	...	0.2	0.2	...	13.4	

(注) 1. 総理府統計局調べ。  
2. \*は速報。

国 際 収 支

(単位・百万ドル)

	51 年	52 年		52 年			51年 8 月
	10~12月	1~3月	4~6月	6 月	7 月	8 月	
経 常 収 支	1,865	893	2,219	857	1,554	670	13
貿易収支	3,319	2,731	3,898	1,480	2,048	1,142	557
輸 出	18,719	17,517	19,389	6,582	7,097	6,432	5,301
輸 入	15,400	14,786	15,491	5,102	5,049	5,290	4,744
貿易外収支	△ 1,369	△ 1,751	△ 1,522	△ 503	△ 449	△ 458	△ 530
移 転 収 支	△ 85	△ 87	△ 157	△ 120	△ 45	△ 14	△ 14
長期資本収支	△ 901	△ 403	△ 532	98	△ 186	△ 404	△ 170
本邦資本	△ 1,595	△ 1,227	△ 724	△ 89	△ 345	△ 449	△ 465
外国資本	694	824	192	187	159	45	295
基礎的収支	964 (△ 152)	490 (1,944)	1,687 (2,221)	955 (890)	1,368 (1,032)	266 (249)	△ 157 (△ 223)
短期資本収支	△ 48	48	△ 263	△ 104	△ 403	91	63
誤差脱漏	△ 270	4	24	△ 152	△ 28	△ 65	201
総 合 収 支	646	542	1,448	699	937	292	107
金 融 勘 定	646	542	1,448	699	937	292	107
外貨準備増減	115	393	391	137	251	128	351
そ の 他	531	149	1,057	562	686	164	△ 244
外 貨 準 備 高	16,604	16,997	17,388	17,388	17,639	17,767	16,291
為銀対外ポジション	△ 14,092	△ 14,080	△ 13,009	△ 13,009	△ 12,396	△ 12,230	△ 14,953

- (注) 1. カッコ内は貿易収支のみを季節調整した基礎的収支。  
 2. 短期資本収支は金融勘定に属するものを含まない。  
 3. 金融勘定の△印は純資産の減少。

輸 出 入 指 標 の 推 移

(季節調整済み、単位・百万ドル)

	国際収支ベース			通 関		輸 出	輸 出	輸入承認・
	輸 出	輸 入	貿易じり	輸 出	輸 入	信用状	認 証	届 出
51 年 10 ~ 12 月	5,795 (+ 4.7)	5,061 (+ 3.7)	734	5,879 (+ 2.7)	5,737 (+ 1.4)	4,141 (+ 3.8)	6,124 (+ 0.2)	6,546 (+ 14.2)
52 年 1 ~ 3 月	6,490 (+ 12.0)	5,095 (+ 0.7)	1,395	6,480 (+ 10.2)	5,811 (+ 2.5)	4,517 (+ 9.1)	6,951 (+ 13.5)	5,976 (- 8.7)
4 ~ 6 月	6,469 (- 0.3)	4,992 (- 2.0)	1,477	6,562 (+ 1.3)	5,821 (- 1.0)	4,532 (+ 0.3)	7,025 (+ 1.1)	5,856 (- 2.0)
52 年 5 月	6,319 (- 5.4)	5,047 (+ 2.3)	1,272	6,270 (- 8.1)	5,880 (+ 2.0)	4,461 (- 2.6)	6,869 (- 5.2)	6,061 (+ 4.8)
6 月	6,410 (+ 1.4)	4,995 (- 1.0)	1,415	6,595 (+ 5.2)	5,819 (- 1.0)	4,555 (+ 2.1)	6,958 (+ 1.3)	5,724 (- 5.6)
7 月	6,678 (+ 4.2)	4,966 (- 0.6)	1,712	6,840 (+ 3.7)	5,559 (- 4.5)	4,524 (- 0.7)	7,105 (+ 2.1)	6,315 (+ 10.3)
8 月	6,596 (- 1.2)	5,471 (+ 10.2)	1,125	6,753 (- 1.3)	6,272 (+ 12.8)	4,979 (+ 10.1)	7,221 (+ 1.6)	6,377 (+ 1.0)

- (注) 1. 四半期計数は月平均。  
 2. カッコ内は対前期(月)比増減(-)率(%)。

流入超(当月 91 百万ドル、前月流出超 403 百万ドル)となった。

なお、8月の貿易収支を季節調整済みでみると、輸出は、船舶の減少を主因に減少した一方、輸入は、原油入着増等から増加したため、収支じりでは1,125百万ドルと前月(黒字1,712百万ドル)に比べ黒字幅はかなり縮小した。

この間、外貨準備高は、月中128百万ドルの増加を示し、月末残高17,767百万ドルとなった。

#### (輸出——3か月ぶりに減少)

8月の輸出(国際収支ベース)は、前月比-1.2%と3か月ぶりに減少した(もっとも、原計数の前年同月比では+21.3%と前月に引続き20%台の伸び)。

品目別(通関ベース)には、自動車、弱電製品、プラント関連機器は増加したものの、船舶は前月引渡し集中のあと急減したほか、鉄鋼は長雨による船積みの遅れから減少となった。

地域別(通関ベース)には、中南米向けが前月減少のあと著増したほか、米国、東南アジア向けも前月に引続き小幅増加をみたものの、西欧向けが大幅減少となった。

輸出信用状接受高(季節調整済み前月比)は、8月+10.1%のあと、9月-1.5%と再び減少した。

#### (輸入——大幅増)

8月の輸入(国際収支ベース)は、前月比+10.2%の大幅増となり、原計数の前年同月比でも+11.5%と3か月ぶりに2けたの伸びとなった。

品目別(通関ベース)には、繊維原料、非鉄金属鉱等は、手当て抑制や市況軟化から減少したものの、原油は前月末休日によるずれ込みなどから、鉄鉱石は豪州鉱山のスト明けからそれぞれかなりの増加となった。

9月の輸入承認・届出額(季節調整済み前月比)は、8月+1.0%のあと、9月は-0.3%の微減となった。